

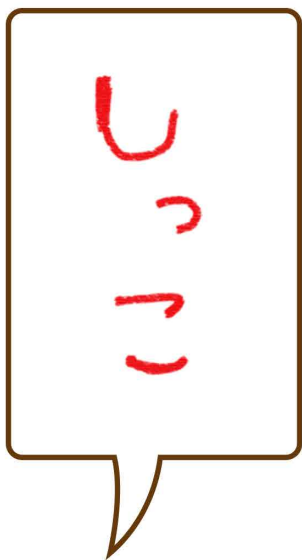
さく 薫くみこ
イラスト ふわこういちろう

わたしには、とくべつなかよしな友達がいる。
でも、前はちつともすきじゃなかったんだ。
そんな気持ちはかくしていたけどね。

わたしのせきははじっこで、
うしろのせきにしっこさんがいる。
ほんとは「きくちまりか」なんだけど、
おしっこもらしてばっかりいるから
「しっこ」ってなまえにされちゃった。

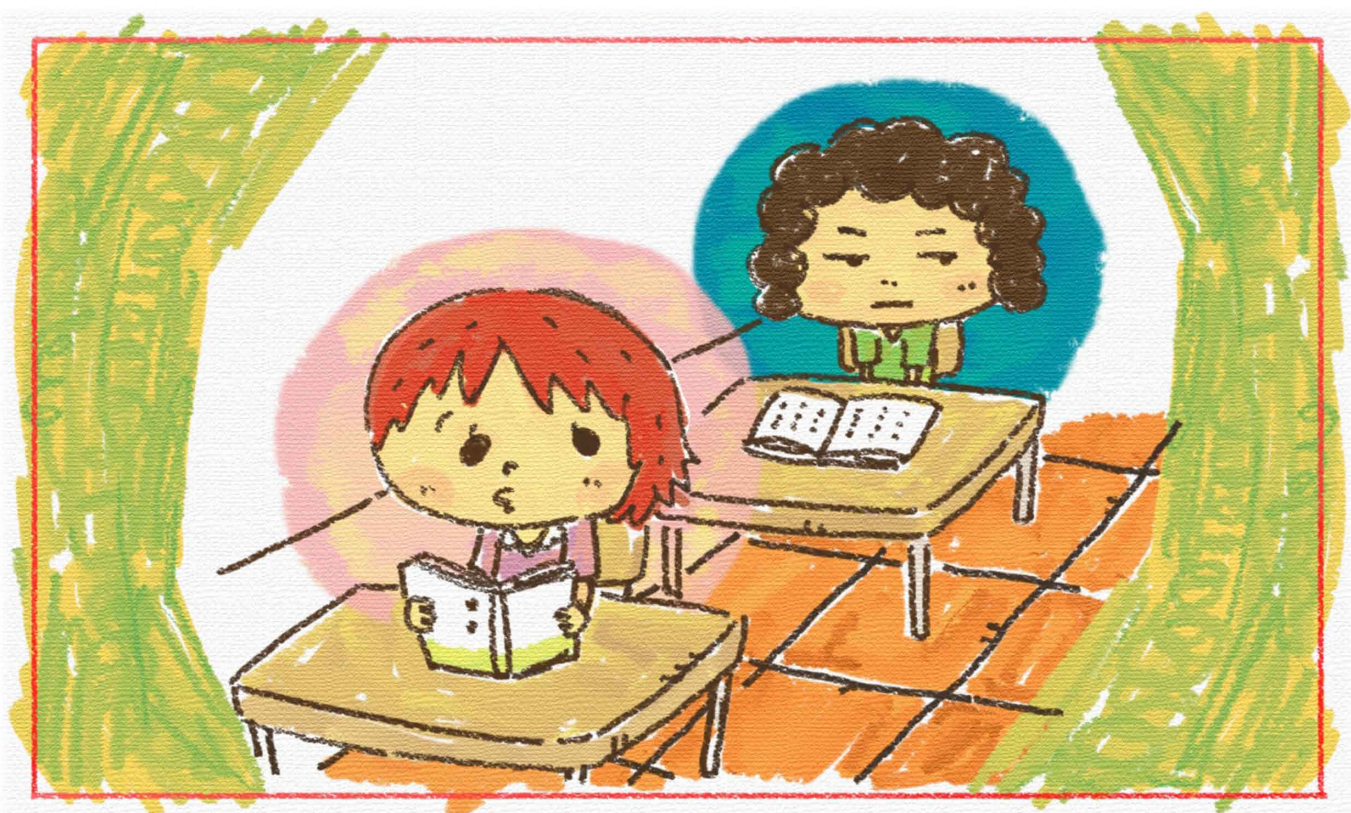


でも、わたしは「きくちさん」ってよぶ。
とまどきこころの中で



ってよぶけど……。

こころの中でいうのはだれにもきこえないからね。



しつごさんは

ときどきわたしのじゃまをする。

「あっち」のってよ」

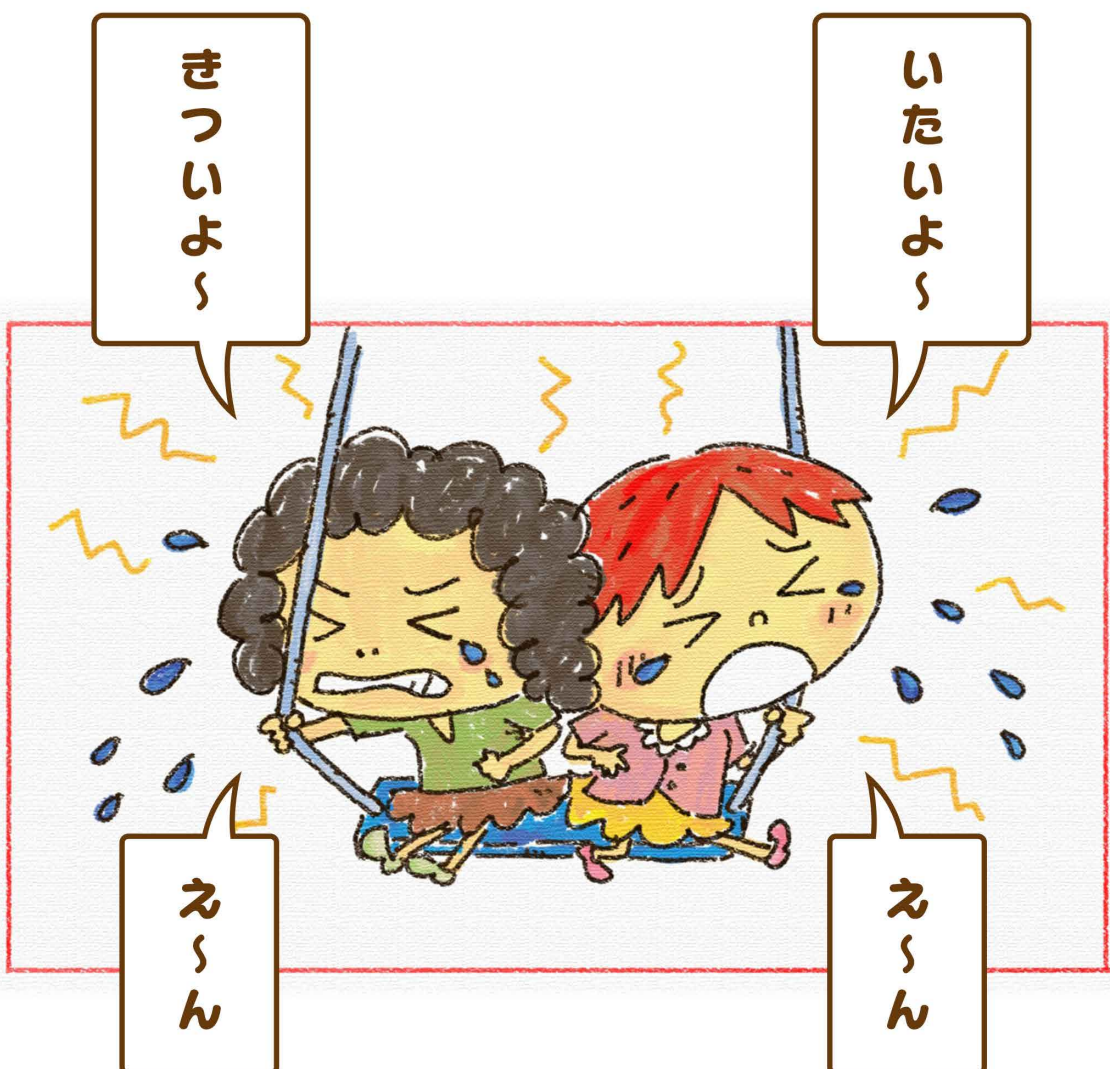
「わたしこれがいいんだもん」

わたしはさっとブランコに

すわってやった。

そしたらしつごさんも

むりやりすわってきた。



ほけんしつ
しつさんだ

ほけんしつにいったら
しつさんがいた。

「あらま、おなじところを
けがしてなかよしね」

ほけんのせんせいがわらった。





こころの中でいったら、

しっこさんの目がつりあがった。

わたしはむねがどきつとした。

よこをむいてごまかした。

まことぎやが

しんだ。

まことのばかが

ぎゆうにゆうをいれて

しなせた。

「ごめんなさい、もうしません」

まことがあやまったら、しっこさんはいった。

「ごめんですめばけいさつはいらないよ」

せんせいはいっこさんをしかつたけど、

わたしはなるほどね、とかんしんした。



しつこさんときんぎよのおはかをつくった。

しつこさんがいった。

「まごとのあたまを百かいたたいで、

たんごぶだらけにしてやりたい」

わたしもいった。

「おへそにくうきいれをつつこんで、

ぷーぷーぶくらまして、

アメリカまでとばしてやりたい」





しっこさんがわらった。
わたしもわらった。

空を見たら、
ひこうきぐもが
すーっとまっすぐ
のびていった。

かえりみち。石をけつてあるいて
いたら、「おーい」と、こえがした。
見ると、ちいさなしっこさんが
手をふっていた。

「おーい」

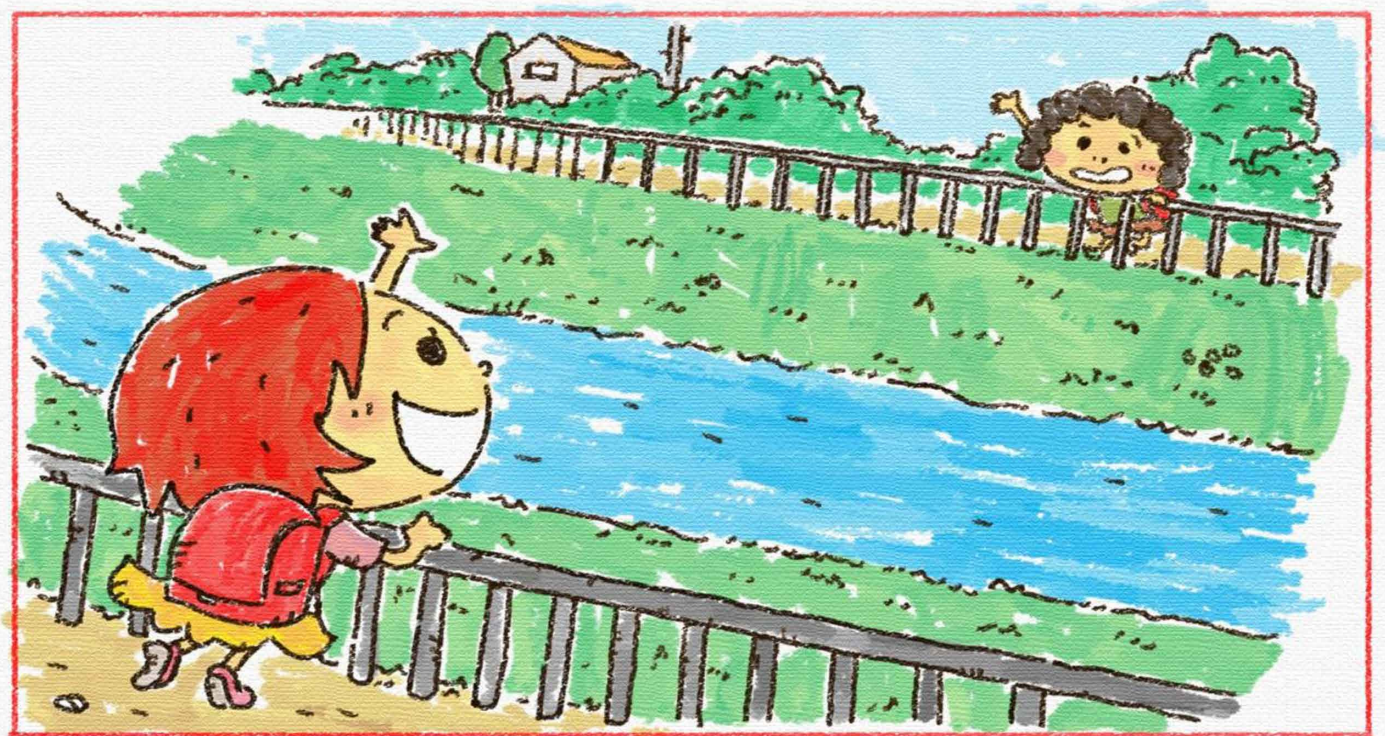
「おーい」

「あしたねー」

「うん、あしたねー」

「ばいばい」

「ばいばい」



つぎの日、目がさめたら

ねつがでていた。

わたしはないて

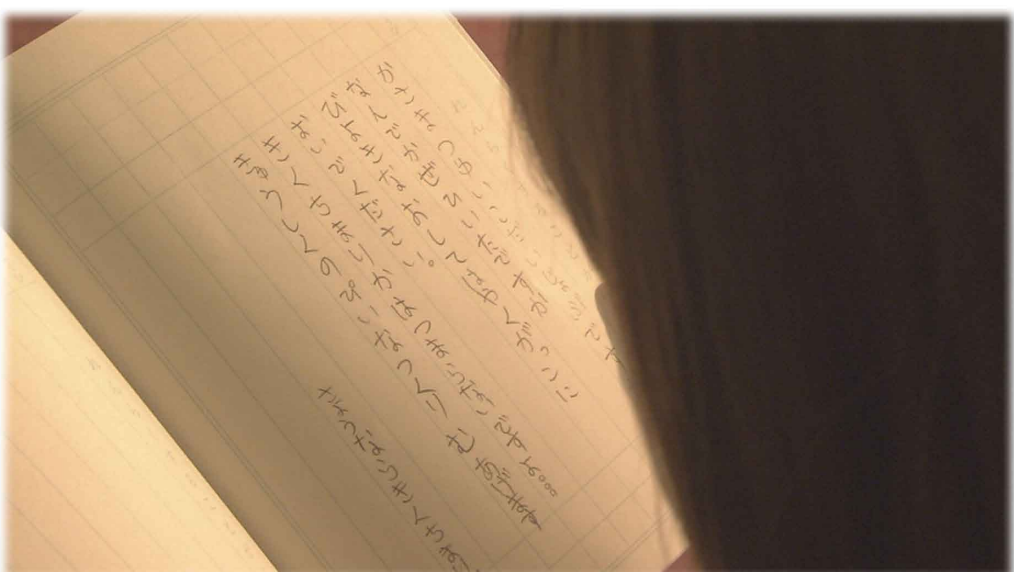
がっこうにいくとあったけど、

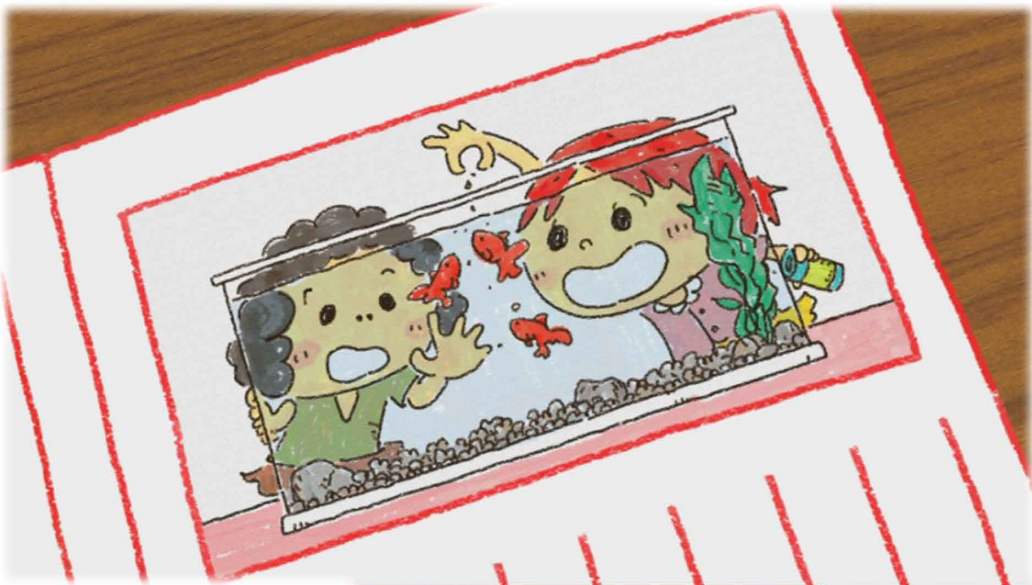
おかあさんに「だめ」といわれた。



ゆうがた、れんらくちょうが
ポストにはいつていた。
しつこさんだった。

かさまつゆいこだいじよぶですが
なんで、かぜひいたですか
ぶよきなおして
はやくがっこにおいでください。
きくちまりかはつまらないですよ。。。
きゆうしくのぴいなつくりむあげます
さようならきくちまりか





うたをうたつてるとき、おしっこがしたくなつた。

もうちよつともうちよつと、

とがまんをしてうたつていたけど、

足ぶみをしたとき、

おしっこがでてしまった。

くつしたがぬれてく……。

うわばきもぬれてく……。

わたしは下をむいた。

どうしよう。

どうしよう。



ザーツとうしろでおとがして、
わたしの水たまりがながされた。
ふりむくと、しつこさんが、
かびんをさかさにもってたっていた。



しつこさんは

せんせいがおこつてもだまっていた。

ろうかにだされてもだまっていた。



かえりのかいのあいだじゅう、

わたしはこころの中でいつていた。

きくちゃん、

ごめんね。

まりかちゃん、

ごめんね。

じいさんなんて

もういいわな。

わたしはわるい。わたしがわるい。

まりかちゃんがゆるしてくれらるまで、

わたしは百まんかいでも

五百まんかいでもずっとあやまる。

「ふじ」

「まりかちゃん、
めいね」



お
わ
り